

県立吾妻中央高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)						
羅針盤			達成度			次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合	
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 一連の学習活動（課題設定・調査研究・まとめ・発表等）に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。	B	A	A	今後も時代の変化にも対応しながら、各科の特色を活かした指導を展開していきたい。
		② 本校の教育活動にやりがいを感じている生徒の割合は、80%以上である。	C	C	C	学校関係者の皆様のご指摘を真摯に受け止め、記載通り生徒に粘り強く働きかけていきたい。「やりがいを感じる」という定義が、現在努力を続けていることという意味合いで捉えるのか、良い結果が出たものとして捉えるのかという点や、現在努力を続けていることに対し、自分にとって正しい努力と認識しているかという点について教員・生徒のずれが生じていることも、この項目の達成度に関わってくるものと考えられる。来年度に向け、アンケートの質問も含めて考えていきたい。
		③普通科では、基礎学力向上のため、各種資格検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検それぞれ2級合格者10名、準2級合格者20名以上を目標とする。	C	C	C	コロナ禍で分散登校や急な学級閉鎖等の家庭学習機会が増えることを想定して、1人一台端末を有効活用して、生徒の学習意欲の向上と各種資格試験対策を考えていきたい。また、学校では、担任や各種資格の担当教員を中心に生徒に資格取得の有用性を示して、受験者の人数を増やしていく。
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。(R2)	④生物生産科では、年間1つ以上の資格の取得を目指し、卒業までに3つ以上の資格を取得することを目標とする。	C	B	B	次年度も、生物生産科の教育活動の一環として、資格取得を位置づけて実施していきたい。また、1年生の資格取得率が低いのは、アンケート実施後に検定の可否が発表されることと関係している。実際、1年生は3つの検定などが全員受験させていることから、実際は、今回の数字より高い数字となると考えられる。これらも踏まえ、今後もより資格取得に意識して指導していきたい。
		⑤環境工学科では、1年生は年度内に資格を2つ以上取得する。2年生は年度内に資格を2つ以上取得し、学年で測量士補と2級土木施工管理技術検定の合格率をそれぞれ50%とする。3年生は測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合を50%以上とする。	C	C	C	資格取得の柱に位置づけている「測量士・国土補国家試験」と「2級土木施工管理技術検定」については、合格率の増進を目標としたい。そのためには対面での補習体制は必須であると考えられるが、教育支援アプリケーションの活用も通じ、生徒自らが学べる体制もつくりたい。そして、取得した資格や専門の授業を通じ、測量設計業及び土木建設業への進路を選択する生徒が増えるように学科全体で取り組むたい。
		⑥福祉科では、介護福祉士国家試験の合格率90%以上を目標とする。	C	C	C	端末を使用した国家試験対策を充実させ、生徒が自ら勉強する環境を整えていきたい。また、模試の結果が合格圏内に届いていない生徒に対しては、早い段階から個々に応じた国家試験対策を行えるようにしていきたい。
		⑦ 学科の特長を活かした体験実習、地域等との連携・交流活動について、感染症対策に留意して実施する。	C	B	C	生徒の進路実現やスキルアップのためにも実施したいところであるが、感染症第6波、7波の到来、ある程度の終息等、状況が見通せない現状では、感染状況で可否を判断しなければならぬことや、依頼先によっては中学生、高校生、専門学校生との重複もあるので、時期をずらすなど臨機応変に対応が進められる範囲で実施していきたいと考えている。
	3 地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。	⑧ 各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことができる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。	B	C	C	新型コロナウイルス感染症による分散登校後、達成感・満足感が下傾向であったので、これまで以上にICTを活用することで個に応じた指導を工夫できるよう粘り強く指導を継続していきたい。次年度も各科、各教科での授業で工夫し、それらの生徒が学習に対する達成感・満足感を持てるよう指導していきたい。
		⑨ 単位未習得者の割合は、全体の3%以下である。	B	B	B	学期ごとに、単位未習得者の割合が減少しつつある。また長期休業の追試・補習を通して、単位未習得者の割合がさらに減少した。引き続き個に応じた指導も取り入れながら、単位未習得者の割合を減らしていきたい。
		⑩生徒観察を常に行い、定期的に注意喚起を行う。また、講習会等を行い先生方の意識の向上を高める。発生後も生徒・保護者のケアに努める。	B	B	B	・取り組みを評価したい。 ・この項目については、非常に難しい問題と理解しています。特に「この子」に関わる問題があると思います。楽しい学生生活が送れるようご指導をお願い致します。 ・コミュニケーション不足による不安が増えないよう、引き続きの取り組みをお願いしたい。
Ⅱ 生徒の主体的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑪ マナーアップや校門指導時に生徒会を中心に活動を行う。アンケートを定期的に行う。また、二者面談や三者面談を積極的に行う。	C	B	B	・日頃からすれ違いざまに良く挨拶をしてくれる生徒が多いです。 ・取り組みを評価します。 ・様々な取組みや連携等ご尽力されている様子を評価致します。 ・生徒自身の活動は意義が大きい。引き続きの活動をお願いしたい。
		⑫新型コロナウイルスの影響下で、スマホやPCの適切な活用方法を意識している生徒が80%以上である。定期健診の再受診の未受診率が30%未満にする。	B	C	C	・スマホやPCの適切な使用方法の指導は是非求めています。 ・コロナ禍での基本的な生活習慣や健康管理について達成できているとのことを評価いたします。まだまだ長期戦との報道もありますので引き続き対策をお願い致します。 ・①・②で増加したが、ある程度しかたがないと思う。配布PCの活用がより有効となるようお願いしたい。
	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑬ 学校での進路学習に対する高い満足度を持つ生徒の割合が80%以上である。	B	B	B	・先生方の親身な指導を評価致します。 ・進路指導については第1回、第2回ともにB評価となっているので、ほぼ達成できていると評価致します。 ・コロナの影響で生の体験がいかに有効であるかを実感している今、タイミングや内容を工夫して1つでも多く実行してほしい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑭ マナーアップや校門指導時に生徒会を中心に活動を行う。アンケートを定期的に行う。また、二者面談や三者面談を積極的に行う。	C	B	B	・SNSの利用時間が増えている中で、利用マナーの更なる向上を目指すと共にSNSを利用した注意の呼びかけ等も積極的にを行い、生徒が中心となってSNSを利用し注意等を行う活動も行いながら指導を継続していきたい。
		⑮ 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	B	C	C	・スタディサプリ等によるオンラインでの進路学習の充実を図り、コロナに対面式の進路行事等が十分に行えない際に代替できるようにしたい。今年度の経験を生かして、ICT活用による作業の効率化を図るとともにペーパーレス化による省資源を進める。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑯ ポートフォリオの作成やフォースイト手帳を活用している生徒が80%以上である。	C	C	C	・手帳はクラスの実情等を考慮しつつ活用し生徒の自己管理能力や計画性の向上を図りたい。 ・ポートフォリオに関しては活用がクラスによって異なる現状を踏まえ、生徒個人が自分自身に対する理解を深め成長するための道具となるよう、より効果的な活用について学年やクラスと連携していく。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な進路指導を行っていますか。	⑰ 「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%となるよう、日頃の学校行事、各科の情報発信を行う。	C	C	C	・HPの更新頻度を増やすと共に保護者が定期的にHPを確認するような仕組み（メールマガジンやSNS、Youtubeなど）や情報の発信を工夫していきたい。
		⑱ 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	C	C	C	・職員に対しては課題を評価につなげるための講習やサポートを充実させる必要がある。ICTの活用が負担とならないため、業務改善と並行して進める必要もある。 ・生徒に対しては、家庭の通信環境に違いがあるため、配慮しながら活用を進める。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑲ 校務にICTを活用し、業務が改善したと実感する職員が80%以上である。	C	C	C	・教員より詳細な意見を聞き取りながら、働き方改革の一環として前向きに進めていきたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳ 「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%となるよう、日頃の学校行事、各科の情報発信を行う。	C	C	C	・ICT社会に対応する先生方のご苦労には敬意を表します。 ・ICT化は必須項目になっていますが、家庭内での活用には温度差があると思います。根気よくご指導頂けるようお願い致します。
		㉑ LMS（スタディサプリやClassroom）を利用した授業や課題の発出を行っている教諭が60%以上である。LMSを利用した教諭の50%以上が評価に結びつけている。	C	C	C	・「我々の仕事でもオンラインの流れが来ている。活用を前向きに進めてほしい。」
	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉒ ICTを活用した業務改善を行っていますか。	C	C	C	・教員より詳細な意見を聞き取りながら、働き方改革の一環として前向きに進めていきたい。